自分の国と向き合う

北方領土青少年現地視察研修 R5. 12. 25 体験レポート

宮崎南高校2年 髙口 楓華

日本全体の問題という意識を持って

私のなかで、**「北方領土問題は自分の国が抱える自分たちの問題だ」**という言葉が一番印象深く残っている。根室市の方々の北方領土返還要求運動を知っていく中で、本当ならば日本全国の人々がそのような活動をするべきではないのだろうかという考えが浮かんだ。**自分たちの抱える問題**なのだから。北海道本土周辺で起きている問題であるだけで、北海道だけが抱える問題ではない。全国から集まった石のように国民の思いも今以上に集まってほしい。

元島民の得能さんは自分が生きているうちに返還されるかわからないからこそ自分の言葉で伝えていきたいとおっしゃっていた。その言葉を聞いた私たちが得能さんのように伝えていかなければならない。根室の高校生の出前講座で言われた**「今日からあなたも情報発信者です」**という言葉を胸に、北方領土返還に向けて、この貴重な研修で学んだこと、感じたことを伝えていきたい。

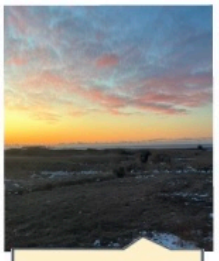
全国から寄贈された石

返還への強い意思を表した北方四島返還「叫びの像」

一緒にこの景色が見られる日まで

4 日間の研修で毎日感じていたことがある。それは北海道の日の出と日の入りの景色がとても美しいということだ。このとても美しい景色を私たち日本人と同じように、北方領土に住むロシア人も見ているのではないだろうか。

領土問題解決までの両国相互理解を促進することを目的に 1992 年に始まった**ビザなし交流**は現在、中断されている。この交流は両国の国民の距離を近づけ、信頼を深めるためのとても大切な道であると思う。この北方領土問題はとても難しい問題だからこそ長い間、解決していない。しかし返還に向けてうごくことをやめてしまえば、解決へと前進することはない。**「何年かかっても取り返さないといけない自分の国だ」**という得能さんの熱い言葉が思い出される。この問題が解決され、両国民が一緒にこの景色を見て美しいと感じることができる日が少しでも早く来ることを願う。



根室市の朝焼け

ビザなし交流の様子

北海道の酪農

今回の研修で、明郷伊藤☆牧場を見学した。まず驚いたのは牧場の規模の大きさだ。見渡して見える土地はすべてこの牧場の土地であることを聞いたときはとても驚いた。この牧場ではハーゲンダッツの原乳が生産されている。雪におおわれた牧場を見るのは初めてのことで新鮮な気持ちだった。

生物の宝庫

北海道にはたくさんの野生動物がいる。この研修でも野生のエゾシカやオオワシ、キツネなどを見ることが出来た。また、近海は寒流系の魚介類も数多く存在している。北方領土ではエトピリカやウトウなどの珍しい鳥も見ることができ、返還後も守っていきたい素晴らしい自然が残っている。

研修を終えて

私はこの研修に参加して、人々の考え方がいかに多様であるかを学んだ。「北方領土で生まれたロシア人にとって、北方領土は故郷であり、この問題の解決の仕方が円満でない場合には、故郷が奪われたと感じるかもしれない」という意見を聞いたときに、そのような捉え方もあるのかとはっとした。やはり、このような問題を解決するにあたって、様々な立場に立って考えることの必要性はとても高いと思う。このことがあてはまるのは北方領土問題だけではない。以前、二度韓国との国際交流事業に参加した時も同じことを感じた。

また、北方領土館を見学したときに中国人の観光客の方が「台湾は中国の一部だ」と主張していて、それぞれの人がいろんな考えを持っているのだと実感した。だからこそ、自分の考えていることが相手にも共通していると思い込んで押し付けるのではなく、多方面から考えることを習慣化したい。この研修で北方領土のことはもちろん、人と関わるうえで大切なことを学ぶことが出来た。国際関係の道に進みたいというはっきりとした意思も出てきた。まちがいなく私の人生で忘れることのない経験となった。これからもこの貴重な経験をさせていただいた身として北方領土が返還される日まで自分にできることに精一杯取り組んでいきたい。